

復讐屋・別れさせ屋…… 当世探偵裏稼業繁盛記

石川清
(ノンフィクションライター)

浮気調査から復讐の代行まで。天に代わって恨みを晴らす“特殊工作”請負人たちの素顔。

何ごとにも空想と現実のギャップがあるものだが、ギャップの大きい職業の最たるものは、“探偵”業ではないだろうか。

テレビや推理小説の探偵と云えば、難解な殺人事件を明晰な頭脳や華麗なアクションを駆使して鮮やかに解決するヒーロー。ところが、実際の探偵が依頼される仕事と言えば、これまでは浮気調査や身元調査、盗聴器探しなどが常だった。いずれも地味で日陰の仕事ばかりだ。

しかし、最近、そんな探偵の仕事にちよつとした変化が起きつつあるのをあなたはご存じだろうか。単なる調査に終わらず、人間関係の操作という形でトラブ

ルを処理する“特殊工作”と称する依頼が目立って増えてきているというのだ。“特殊工作”依頼の内容は様々だが、例えば自分を振った元恋人と今付き合っている異性の仲を割く“別れさせ工作”。

あるいは、自分を傷つけた憎い相手に自分が味わたつたのと同程度の苦痛を味わわせてほしい、という“復讐工作”依頼などいろいろある。単なる尾行と異なり、そういつた“特殊工作”に要する費用や時間、人手はかなりのもの。作業も難航をきわめる。少なくとも誰にでも手軽にできる種類の仕事ではなく、また金額面から誰でも依頼できるものでもない。いったい、そんな依頼を引き受ける探

偵とはいかなる存在で、またどんな人たちがそんな依頼をするのだろうか。そして、その依頼を探偵はどうやって遂行するのか。当世探偵稼業の舞台裏を取材してみた。

不況と無縁の探偵商売

中村賢さんが代表を務める(株)日本調査情報センター(03-5804-0771)は、北は北海道から南は九州まで全国で25のフランチャイズを抱える国内では中堅クラスの探偵社だ。傘下にあわせて300人弱の探偵を抱えている。

「探偵業の統計はないので全体的な状況はわかりませんが、一般的な探偵社であ

る当社の東京本社が受ける個人依頼の件数は、1ヶ月でだいたい50〜60件です。問い合わせはその10倍程度ありますが、例えば電話番号からの身元割り出し調査だけでも数万円、尾行をとまなう調査の場合、1日で5万〜10万円はかかる高額なものなので、誰にでも気軽に依頼できる種類のものではありません。

仕事の内訳は、7〜8割が浮気調査関連です。あとは結婚相手などの身元調査、電話番号からの身元割り出し、盗聴器探し、ストーカー対策などとなります。浮気調査も、4〜5年前までは女性からの依頼が9割ほどを占めていたのですが、最近では男性からの依頼が増え、今では女性からの依頼の方が若干多い程度、ほぼ半々の状況となりました。

女性の社会進出が進んだ結果、結婚しても仕事を続ける女性が増えてきた。また、インターネットや携帯電話の普及で、ネット上の出会い系サイトに誰でも気軽にアクセスできるようになった。その気になれば簡単に異性と出会えるような時代になったわけである。このため、

以前は浮気といえば男性がするというのが相場だったのに、今や必ずしもそう言えなくなつたのだ。女性も男性並に浮気をするようになってきたというのである。同社が行つた浮気調査のうち、約9割は浮気の実事が判明したという。男女の別を問わず、伴侶が強い疑いを持った時点で、相手が浮気している確率はかなり高いようだ。

「いずれにしろ、深刻な不況にもかかわらず、依頼件数は減つてはいないので、少なくとも問合わせの件数は以前よりかなり増えています。と同時に、ちょっと複雑な依頼も目立つようになってきています」

浮気調査から別れさせ工作まで

以下は今年の春に中村さんの元に舞いこんだ依頼である。

「依頼者は都内に住む31歳の女性でした。2歳年下のフィアンセの素振りがおかしいから素行を調べてくれ、というものでした」

依頼者の女性をAさん、相手の男性を

Bさんとしよう。Bさんは商社マンだった。調査の結果、Bさんは取引先の年下のOL（Cさん）とも付き合っていることが判明。そのことをそのままAさんに告げた。

本来ならここで探偵の仕事は終わるはずだった。しかし、その数日後、Aさんは再び中村さんの元に姿を現した。浮気の報告を受けてすぐ、AさんはBさんを問いつめた。その結果、大喧嘩となり、二人は別れたそう。BさんはもうCさんと結婚する気ではない。

Aさんの気持ちはおさまらなかつた。実はAさんは、昔付き合っていた男の1000万円の借金の連帯保証人となっていたが、ついには男が逃げて、借金を一人で払う羽目に陥つた。そのため、風俗業に勤めを変え、苦節5年、ようやく昨年になって借金を返済し終え、かねてから知り合いだったBさんと結婚を前提に付き合いを始めていたからである。BさんはAさんの過去を知りながら、Aさんとの結婚を約束してくれた。感激したAさんは身を売って稼いだだけなしの金を

Bさんに買いだりもした。

あげくの果てにBさんはAさんを裏切って捨てたというのである。Bさんを信じていただけに、Aさんの心に残る傷は深かった。年齢や仕事を考えると、もう一生、自分には幸せな結婚はできないと考えた。そのうえで、Aさんは再び探偵の元を訪ねたのである。

「なんとかBとCの二人を別れさせてくれないでしょうか。そうすればもしかしたらBは私の元へ戻ってくるかもしれない……」

涙ながらにAさんはそう訴えた。

「悩みましたが、結局、依頼を受けることにしました」(中村さん)

恋人を寝取って任務完了

この時に中村さんが考えた方法は二つだった。

第一の方法は、BさんとCさんの属する会社が取引関係にあり、しかも二人とも会社に内緒で付き合っていることに着目したやり方だった。どうやらどちらも社内や取引先など職場での恋愛に対して

風当たりが強いらしい。

「それぞれの会社に対して、お互いの悪い噂を言いふらすのですよ。会社の悪い噂、個人の悪い噂、両方です。そうすると、仕事にも支障が出ますから、よほど好きあつていない限りは、たいてい別れます。ただ、そうしてBさんが会社を辞めたり、左遷されたりすれば、Aさんによりを戻したときにAさんが困ってしまうこととなります。だから、この方法は採りませんでした」

中村さんたちは第二の手段を採用した。Cさんに、Bさんとは違う別の彼氏を作らせて、Bさんと別れさせてしまうというものだ。

「ようするに傘下の調査員の中からCさんの好みにあいそうな男性を選び、Cさんに近づけて恋仲にさせてしまうのです。BさんとCさんは付き合い始めてからまだ1ヶ月強しかたっていませんでした。だから、まだ二人の関係は浅いと踏んだのです」

中村さんたちはCさんの周囲を探り、Cさんの好みの男性タイプ、趣味、それ

に日常の行動パターンを探った。その結果、仕事が終わると必ず同僚と一緒に行く飲み屋があることを突きとめた。調査員はその飲み屋で偶然を装って、Cさんにさりげなく近づいた。

結果的にはこの作戦が大成功。調査員とCさんは、ほどなく一緒にドライブに行く関係になり、1ヶ月ほどでベッドを共にする深い仲となった。CさんはBさんに別れを告げた。もちろん、背後で調査員がそう言うように仕向けたのは言うまでもない。

「この種の仕事は成功するかどうかかわからないので、期限を決めて成功報酬の契約をしました。結局、1ヶ月ほどの期間内の工作で約100万円の謝礼をAさんから受け取りました。ただ工作は成功したものの、BさんはAさんの元へは戻りませんでした。もちろん調査員もほとんどCさんと別れました……」

昔から一度壊れた男女の仲は、元には戻りにくいもの。いかに敏腕な探偵といえど、その点についてはどうにもできないものらしい。

ハイテク機器を駆使して迫る！

ところで、調査対象の素行や状況などはどのようにして調査するのだろうか。

「その点は、従来の尾行調査などほとんど変わりません。以前は尾行と言えど、探偵が始終、対象者の後ろをつけ回して、逐一行動パターンを記録していましたが、今は必ずしもそうしなくてもすんでいます。ようするにハイテク機器を使うわけです」

例えば、相手が常に車で移動していて、その車の居場所だけを記録しておけばいい場合は、PHSや携帯電話を利用する。最近のPHSや携帯電話には位置情報を測る機能がついている。

「細かいノウハウについては企業秘密なので教えられませんが、そういった携帯電話やPHSの端末を相手の自動車に取りつけるわけです。そうすれば、自動的にこちらのパソコンの画面上に相手の位置が表示されます。この手法を使えば、探偵を四六時中、対象者に張り付けておく必要がないので、人件費が浮いて低コ

ストで調査が可能となります。単純に行動パターンを把握するだけなら、かなり有効ですよ」

対象者の会話や通話を盗聴しなければならぬこともある。しかし、それは一方で犯罪行為となりかねない。いったいそんな問題をどうやってクリアし、いかにして盗聴など行うのだろうか。

「とにかく、盗聴器を仕掛けて身近な位置から音情報を記録するか、遠方や隣の部屋などから対象者周辺の音情報を集音する必要がどうしてもできます。そのため各種機器は当然揃えています。

盗聴器を仕掛ける場合、対象者の家族が依頼者なら、その依頼者に協力してもらって対象者の屋内に仕掛けることが可能ですが、そうでない場合は不法侵入など法律に抵触することになりかねないので、慎重な対応が必要となっています。

探偵の場合、弁護士や警察のように、調査権を法律で保証されていないので、その活動に非常に制約が多いのが実状です。それゆえに、できる探偵とできない探偵の実力差が大きかったり、ヤクザま

がいの真似をして恐喝や不法侵入を繰り返す探偵もいたりするので、私たちもとまどっています」

各種ハイテク機器や尾行術などを駆使して、探偵は対象者の素行を調査し、行動パターンを把握する。いずれにしろ「特殊工作」依頼を遂行する時、このプロセスは欠かせない。だから、どうしても普通の依頼より、時間やお金がかかってしまうのである。

「復讐」の依頼にきた女性

中村さんの元に来る依頼のうち、上記のような「人間関係」の操作を必要とする「特殊工作」の依頼はまだ少ない。1、2年前から問い合わせが目立ち始め、実際に依頼を受けたのは3、4件という。

中にはそういう種類の依頼は受けない探偵社も少なくない。報酬は大きいですが、リスクも大きいからである。下手な調査で違法行為が発覚するようなことになれば、逆に依頼者ともども警察の御用となってしまうことがあるからだ。